北海道教育委員会教育長　　柴田　達夫　様

青野洸夢の高校進学を実現させて下さい！

息子、洸夢にはダウン症という障害があります。小学校、中学校は地域の普通学級で学びたくさんの友だちができました。洸夢と共に学ぶことで周りの子どもたちも共に生きる大切さを育むことができたといいます。

この春、洸夢は高校も地域の普通高校で学びたいと道立高校定時制を受験しました。2月からの入院が長引き、最初の受験日は病状から受験することはできませんでしたがその後の2次募集は病院で受験科目である面接を受けました。しかし、定員割れをしている状況で他の受験生が全て合格した中、洸夢はひとりだけ不合格でした。さらに3次募集、4次募集と4月上旬まで合計3回もその学校の面接を受けましたが結果は同じでした。まだ募集定員が残っているのにもかかわらず、この春洸夢は北海道でたったひとりだけ定員内不合格となり行き場がなくなってしまいました。

「高校に行きます」と洸夢が何度も練習した言葉を面接では聞き取ってもらえなかったことや、障害があるから高校では周りとうまくやっていけないだろうという判断をされたことは、本人にとってとても悲しいことであり、またそれは障害に対する差別ではないかと思います。障害があってもなくても共に学び共に育つ社会は世界の流れです。「みんなと一緒に高校に行きたい！」という洸夢の思いを実現させて下さい。

青野　比奈子　　連絡先　hinako.aono1201@jcom.home.ne.jp

005-0002 札幌市南区澄川2-4-12-13-204

私たちも賛同します

名　前	住　所

＊上記個人情報は本目的以外には使用いたしません

（取扱い団体）どんなに障害が重くても地域の学校へ・連絡会議

道新聞（夕刊）　第3種郵便物認可

「共に学ぶ」貫き9年

ダウン症の青野さん 普通学級卒業

札幌 母と二人三脚 級友も支援

ダウン症の青野洸夢さん(15)＝札幌市南区＝が今春、市内の公立中学校を卒業した。青野さんは小中の9年間、障害に応じた教育を受ける「特別支援学校」ではなく、普通学級で学んだ。「障害の有無で分けられたくない」という母比奈子さん(51)の思いからだ。周囲の理解や助けを得ながら二人三脚で一歩ずつ進み、卒業の日を迎えた。

（編集本部　古川有子）

中学校の近くにある桜の木の下で、卒業証書を手に笑顔を見せる青野洸夢さんと、母比奈子さん（藤井泰生撮影）

「卒業証書授与式を始めます」。4月28日、中学校で洸夢さんのためにひと月遅れの卒業式が行われた。3月の卒業式は心臓の手術で出席できなかった。卒業証書を胸に、洸夢さんは「ありがとうございます」とはにかんだ。

比奈子さんと父光さん(50)、3人きょうだいの5人家族。幼いころから心臓に疾患を抱え、保育園に通えなかった。比奈子さんが仕事を辞め、2人で療育施設に通った。学齢期を迎え、比奈子さんが「学校に入ったら、いろんな人との関わりの中で育ってほしい」と考え、普通学級を選んだ。

多くの壁にぶつかった。体の発育が遅れて歩けず、学校で比奈子さんが常に付き添った。授業中に教室を出たり、床に座り込んでしまうことも。「障害があるのに、なぜ無理して普通学級に通わせるのか」という声も聞こえてきた。

一方で、比奈子さんの思いを理解してくれる保護者も少しずつ増え、付き添いをサポートするボランティアグループもできた。

黒田美香さん(49)は、息子の颯さん(15)が小学校で洸夢さんと同じクラスだった。毎日付き添い、学校行事も一緒に参加する比奈子さんの姿に、強い思いを感じたと振り返る。「普通学級と特別支援学校、どちらがいいか正解はないと思う。でも、青野さんの思いを尊重したいという気持ちになった」

子供たちも大きな助けになった。成長につれて徐々に歩けるようになった洸夢さんだが、小学生の時に階段を嫌がって立ち止まっていると、友達が「手をつないで行こう」と声をかけた。洸夢さんは手をつなぎ、笑顔で階段を上り始めた。比奈子さんは、子供たちは「自然に洸夢を受け入れてくれた」と振り返る。

中学1、2年で同じクラスだった友人の河合祐輔さん(15)にとって、障害のある子と一緒に学ぶのは初めてだったが、表情豊かな洸夢さんとの会話は、聞き取れない言葉があっても楽しかったという。「いつもにこにこして、クラスを明るくしてくれたし、陸上競技会で断トツビリなんだけど一生懸命走る姿は、すごくよかった」と河合さん。「洸夢は助けてもらっていただけじゃない。洸夢のおかげで経験できたことがたくさんあった」

卒業アルバムは「楽しかったよ、ありがとう」「洸夢はみんなに愛される人だね」といった寄せ書きがあふれた。同世代の仲間の中で居場所をつくり、過ごした日々が凝縮されている。洸夢さんは「学校は楽しい。うれしいです」と顔をくしゅっとさせて笑う。9年間の豊かな経験を元に、高校進学へ向けて準備を始めている。

北海道新聞　2016.5.7